

食育だより

添田町立落合小学校 栄養教諭 村上 弘子

糸田町給食センター「県知事賞」受賞！

10月20日福岡県学校給食会において学校給食料理コンクールが開催されました。

本年度は、田川郡を代表して糸田町給食センターの調理員さんが「鮭と彩野菜のホイル焼き・ひじきとアーモンドのサラダ・小松菜のポタージュ・梨とミニトマトのシロップ煮」という献立で出場しました。限られた時間内に手際よく調理した結果『地場産物を取り入れ、安心・安全・栄養バランスが取れ、なんといってもおいしい料理』と評価され最優秀賞である「県知事賞」をいただきました。

伊方小学校で田川郡学校給食研究発表会

11月18日、伊方小学校で2年間かけて取り組んだ「食育」の研究の成果が報告されました。全14学級で公開授業が行われ、生き生きと活動する児童の姿を通して、「生きた食育・楽しい食育」を見ることができました。また、アトラクションとしての2年生児童の元気いっぱいの「給食の歌」は、とてもかわいらしく、和まされて笑顔をいただきました。伊方小学校の先生方、児童の皆さん、ありがとうございました。

養護だより

福智町立弁城小学校 養護教諭 井上 啓子

田川郡学校保健会では、11月25日に視察研修を行いました。午前中は「福岡市健康づくりセンター」内にある『ウェルネス・ストリート』を訪問し、約300種類の食品サンプルを使いながら、食事バランスチェックなどの体験をしました。

午後からは「子どもの村福岡・センターハウス」を訪問し、村長の坂本雅子氏よりお話を伺いました。我が国や福岡市における社会的養護が必要な現状や、「注1 SOS 子どもの村」の沿革、昨年4月に日本初の「子ども村」が福岡に設立されるまでの経緯をわかりやすく教えていただきました。（現在は、4つの育親家庭に9人の児童が暮らしています）その後、施設見学をしました。5棟の家族の家の中心には中庭があり、どこにいても人の気配を感じられる造りでした。村長さんやスタッフの方々には、人の温もりを強く感じました。『親の病気や虐待など様々な理由で傷ついた子ども達の心を癒し、健やかな育ちを取り戻すために、家庭的な環境と専門的な支援、地域とのつながりを大切にしている』という活動は学校現場でも参考になるものでした。午前・午後ともに大変有意義な研修となりました。（注1 SOS…save our souls）

田川教育研究所 新報

第103号
平成24年1月20日
発行所 田川郡教育研究所
<http://www.tagawa-lab.sakura.ne.jp/>

学習指導と評価に関する研究

田川郡教育研究所 所長 縄田 哲也

新春を迎え、皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
今年度は小学校において新学習指導要領が完全実施され、4月からはよいよ中学校も完全実施という中、教育課程の新たな編成や授業改善等に変えてお忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。
さて、今年度は教育講演会のシステムを多少変更し、夏季休業中の変えてお忙しい中「自己肯定感を育む教育活動」と題しまして、福岡県立大学の松浦賢長教授よりご講演をいただきました。授業改善はもとより、家庭学習の充実や学習規律の確立、基本的な生活習慣の定着などの取り組みの基盤となる、児童生徒の自己肯定感を高めるためにはどのような教育活動を仕組んでいく必要があるのかを学習することができました。
郡内より約120名の先生方の参加があり、充実した教育講演会を実施することができましたことを、心よりお礼申し上げます。
今年度は、田川郡教育研究所では「学習指導と評価に関する研究」として各教科等部会からいただきました研究の成果を、研究紀要第51号としてまとめ、年度末に配布することとしております。今年度、所報や研究紀要等にご執筆いただきました先生方や学校に心より感謝申し上げ、挨拶とさせていただきます。

田川郡教育研究所の今昔

田川郡教育研究所 OB 梶谷 敏明

平成6年から8年までの2年間、田川郡の研究所を推進することになり、責任の重さを痛感しました。赴任した学校が、県の研究校の指定を受けていましたので、まず、県の教育センターで学んだ理論をもとに、現場で実践することを提案しました。当時は、梶田一氏（大阪大学教授）の教育学理論が、全国の学校に広がっていました。

その理論の背景は、「自己の生き方を見つけるため、さまざまな生活場面で行動を選択し、新しい場面でも、次々に自己の活動指針を発見できる生徒の育成」です。

平成8年には先生を招聘して所員の研修を深め、各学校で実践し、それをもとにレポートを作成していただきました。

理論に裏付けられた実践、実践を通しての成果と問題点等々が明らかになっていきました。田川の将来は、教育にあるとだれもが疑う余地はないでしょう。

積極的に理論研究を進め、実践できるテーマを選択し発見し続けることが、田川郡教育研究所の一つの仕事だと思います。田川郡教育研究所の、これからの発展を心から期待しています。

平成23年度 田川郡教育研究所職員

| | |
|----------------------|----------------------|
| 所長 縄田 哲也（赤中学校校長） | 副所長 太田 亮一（添田小学校校長） |
| 幹事 平野 志津夫 | 書記 松下 香織 |
| 主任研修員 船瀬 安仁（弁城小学校教頭） | 主任研修員 中園 仁美（方城中学校教頭） |
| 研修員 中山 謙一（川崎小学校教諭） | 研修員 小西 良平（大任小学校教諭） |
| 研修員 荒尾 和幸（方城中学校教諭） | 研修員 中西 由恵（香春中学校教諭） |

平成23年度 田川郡教育研究所の主な事業

- 研究事業
 - ◎ 研究主題に基づき、調査・研究・実践に取り組む。
- 研修事業
 - 田川郡教育研究所主催「教育講演会」の実施
7月26日 於 香春町民センター
 - 筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会への参加
8月25日 於 田川市青少年文化ホール
発表者 福智町立赤池中学校 教諭 桑城 直子 先生
 - 福岡県教育研究所連盟研究発表協議会への参加
11月17日 於 福岡県教育センター
発表者 添田町立添田中学校 教諭 森 孝太郎 先生
 - 教育実践研究に関する研修会〔研究所主催・筑豊教育事務所後援〕の実施
 - 言語活動の充実を図る学習指導研修会〔研究所主催・筑豊教育事務所後援〕の実施
 - 小・中学校授業エキスパート養成講座〔筑豊教育事務所主催・研究所共催〕の実施
- 研究物等の発行
 - 教職員名簿（5月配布）
 - 所報（第102号：10月配布、103号：1月配布）
 - 研究紀要（第51集：3月にCDで配布）

研究の概要

1 研究主題

「学習指導と評価に関する研究」(1年次)
 ～言語活動の充実を図った学習指導と新しい評価の実践事例の収集を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請と教育改革の動向から

21世紀、知識基盤社会、グローバル化など社会が急速に変化する中、次代を担う子どもたちは、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、歴史や伝統を継承しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々を尊重し共存することなど、変化に対応する能力や資質がいっそう求められている。しかし、国内外の各種学力調査結果によると、我が国の子どもたちの課題として、思考力・判断力・表現力等が十分に身に付いていないことがあげられている。

これらの状況を踏まえて、中央教育審議会が審議・答申が行われ、教育基本法、学校教育法が改正された。そして、新学習指導要領が小学校において本年度から、中学校においては来年度から完全実施される。新学習指導要領は、「生きる力」を育むという理念を踏襲したものである。とりわけ、「確かな学力」については、基礎的な知識や技能を習得させるとともに、知識技能を活用した思考力・判断力・表現力を育成し、学習意欲を養うことを重視し、バランスのとれた学力の育成をめざしたものになっている。また、学習指導要領の改訂にあたって充実すべき重要事項の第1として「言語活動の充実」があげられ、各教科を貫く改善の視点として示された。

本年度から実施される学習指導においては、子どもたちの思考力・判断力・表現力を育成すべく言語活動を充実させ、それらが身に付いたかを見取る学習評価の充実が図られなければならない。

(2) 田川郡の児童生徒を取り巻く状況から

平成23年5月、故山本作兵衛氏の描いた炭鉱労働絵画がユネスコの世界記憶遺産に登録されたことは、田川に明るいニュースとなった。しかし、エネルギー革命による炭鉱閉山の嵐から半世紀経とうとしているが、その影響は今でも児童生徒の生活に影響を与えている。

本郡の状況を見ると、厳しい経済状況にある家庭、不登校の増加や定着しにくい基本的な生活習慣、見通せない将来への展望など課題が挙げられる。また、本郡の学校教育においては、子どもたちの学力の向上と進路の保障が大きな課題とされている。

したがって、子どもたちの学力向上と進路保障を実現するためには、基礎・基本となる知識技能を確実に定着させ、知識技能を活用する思考力・判断力・表現力を高める教育実践研究が望まれる。

(3) これまでの研究の経過から

| 年 度 | 研 究 主 題 |
|-----------|--|
| 平成10～11年度 | 「生きる力」をはぐくむ授業づくり |
| 平成12～13年度 | 「生きる力」を育てる総合的な学習 |
| 平成14年度 | 「生きる力」を育てる教育課程の展開 ～評価活動の充実をとおして～ |
| 平成15～17年度 | 学力実態及び学力向上の取組に関する調査・研究 ～学力検査結果の分析と実践事例の収集をとおして～ |
| 平成18～22年度 | 学力向上の取り組みに関する研究 ～生きる力を身につけた児童生徒の育成～ |

香春町立勾金中学校
【実施日】 11月21日
【学校教育目標】
 心豊かに
 たくましく生きる
 生徒の育成

香春町教育委員会指定・委嘱

生徒の学ぶ意欲を喚起し、みんなが「わかった」と言える授業づくりを目指して～授業の学びの場を導き出す発問の工夫～

〈研究の特色〉
 わかる授業の創造を目指し、尊重感、共生感、達成感を基底に据え、生徒が意欲的に学校や授業に向かう努力をしてきました。研究の実践の大きな柱は「わかる授業の構築」です。

- 【ま】 ず復習する (既知から未知へ)
- 【が】 く習のめあてをつかむ (主眼の提示)
- 【り】 解を深める (手だて、発問の工夫)
- 【か】 く実な定着を図る (基礎・基本の徹底)
- 【ね】 クストステップへ (授業のスパイラル)

〈成果〉
 ・研究主題具現化の実践及び校内研修の充実
 ・【ま・が・り・か・ね】学習過程の構築

福智町立方城中学校
【実施日】 11月22日
【学校教育目標】
 自ら考え心豊かで
 たくましく生きる
 生徒の育成

福岡県中学校社会科研究大会筑豊大会

「確かな学力の向上をめざす
 社会科学習指導のあり方」
 ～シラバス等の活用を通して～

〈研究の特色〉
 シラバスの作成と活用を通して、確かな学力の向上を目指す社会科学習指導のあり方を究明することを目的に以下の手立てをとる研究を行った。

- (1) 事前に学習内容や評価方法を提示する。
- (2) 課題解決的な学習を仕組む。
- (3) まとめの段階で次の課題を提示する。
- (4) 家庭学習を受けての導入をつくる。

〈成果〉
 ○シラバスを作成・活用したことで生徒に学習の見通しを持たせることができた。
 ○シラバスを活用することが授業、及び、評価方法の改善につながった。

1年間の長期研修を終えて

福智町立伊方小学校 教諭 江頭 義幸

平成22年度長期派遣研修員として福岡県教育センター情報教育班で研修させていただきました。福岡県教育センターでは、指導主事の先生方より指導・助言を受けながら、今日の教育的課題の解決に向け、研修を深めることができました。「主題研究」では、総合的な学習の時間における探究的な学習を支援するICT活用法の研究をしました。また、「一般研修」では、幅広く教育に対する識見を高め、「実務研修」では、社会人として求められる人間力を身に付けることを目指し、研修することができました。

福岡県教育センター情報教育班で学んだ「一つのことを深く探究する姿勢」を今後の教育実践に生かしていきたいと思っております。

1年間という長期にわたり、このような素晴らしい研修の機会をいただきありがとうございました。研修の機会を与えて下さった関係の皆様方や、在籍校の校長先生をはじめ、職員の皆様方に心より感謝申し上げます。

福智町立金田中学校 教諭 門 健児

平成22年度長期派遣研修員として、福岡県教育センターで研修をさせていただきました。教職経験の中で様々な研修をして参りましたが、今回は1年間という長い期間でとても充実した研修でした。

研究主題は「心身ともに健康な生活について自己決定する生徒が育つ学級活動」、副題を「アクションプランシートを使った生活改善活動を通して」と設定し研究を進めて参りましたが、特別活動に関しての研修などしたことのない自分にとって、主題・副題を決めるところからが難題でした。しかし、指導主事から優しく丁寧に、また、時には厳しく指導していただくことで主題・副題を決めることもでき、研究を無事に終えることができました。この研究を通して学んだことをこれからの教員生活に生かし他の先生方にも広めることができるようにしていきたいと思っております。

このような素晴らしい研修の機会をいただき有り難うございました。他の先生方も機会があれば是非行ってください。

研究発表会実施校の紹介



川崎町立川崎中学校
【実施日】10月28日
【学校教育目標】

自分を律し、豊かな心を持ち、共に伸びようとする生徒の育成

第48回福岡県中学校技術・家庭科研究大会筑豊地区大会

「課題を解決するために必要な実践力を身につけた生徒の育成をめざす技術・家庭科教育」～家庭や社会で活用できる思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導の工夫～

《研究の特色》

学習した知識や技術が実生活で十分生かされない実態から、言語活動を通して思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導の工夫を ○指導家庭の工夫 ○ワークシートの工夫と活用 ○少人数グループでの実践 の3点で研究を行った。

《成果》

○新学習指導要領の完全実施に向けて、方向性が明らかになった。
○「生物育成」の必修化に伴った協議を実施することができた。

《課題》

○技術・家庭科の授業で言語活動を重視した学習指導の工夫と、思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業の展開がさらに必要となってくることを実感した。



福智町立市場小学校
【実施日】10月29日
【学校教育目標】

子どもたちの夢を育て、夢を実現する力を培う

基幹学力研究会福岡大会を終えて

本校では、「子供たちの論理的思考力を育てるための授業とはどうあるべきか」を研究の中心に据え、取組を続けてきました。昨年度までの算数科に加え本年度からは子どもたちの基幹学力として算数科及び国語科の学習における論理的思考力を育てる授業づくりに取り組んでいます。

去る10月29日（土）には、「基幹学力研究会福岡大会」を開催しました。多くの参加者のもと、全職員による授業、ワークショップ、シンポジウム、筑波大学附属小学校田中博史先生による講演と盛りだくさんの内容の研究会となりました。これからも市場小は、本研究を深めて参ります。そして、子どもたちの考える力（論理的思考力）を育てていく授業、学級づくりを問い続けていくつもりです。



添田町立添田小学校
【実施日】11月2日
【学校教育目標】

子どもたちの夢を育て、夢を実現する力を培う

福岡県教育委員会重点課題研究指定・委嘱
思考を深める子どもを育てる学習指導～学力調査問題を生かした学習課題の設定とかく活動の位置づけを通して～

＜研究の特色＞

思考を深める子どもを育てる学習指導を究明するための手立ての有効性を以下の3点から検証した。

○思考を深める学習課題の設定 ○思考を進めるための「かく活動」の位置づけ ○思考の深まりが実感できるふりかえり

《成果》

- ・ 調査問題で使われている思考方法を用いた学習課題の設定は、児童が思考を深めるきっかけとするのに有効であった。
- ・ 条件を付加した「かく活動の設定」は、思考児童の思考を深めるのに有効であった。
- ・ 毎時間学習の最後に位置づけたりふりかえりの設定は、児童が思考を深めたか実感するとともに、思考が深まったか評価するのに有効であった。



福智町立伊方小学校
【実施日】11月18日
【学校教育目標】

豊かな人間性とたくましく実践力のある児童の育成

田川郡学校給食会の研究指定・委嘱校

「健康に関心をもち、『食』に対して自立する子どもの育成」～自己の振り返りと体験活動を通して～

＜研究の特色＞

「食」に対して、選択し判断できる能力の育成をめざし以下の3点から検証した。

【着眼1】 課題発見力
【着眼2】 分析力・自己決定力
【着眼3】 実践力

＜成果＞

- 「朝ごはん」を食べて登校する児童が増え、給食の「残菜」が大幅に減少した。
- 学習面への集中と体力アップにつながり、学力向上に大きく転移した。
- 保護者の参加が大変多く、「食育」への関心が大きく高まった。

今後も「食育」を継続的に取り組みたい。

3 主題の意味

(1) 学習指導とは

学習指導は、学習者の学習を援助し促進する教師の営みであり、学習者の理解を低次のものから高次のものへ変化発展させる目的意識的な活動である。今回の学習指導要領の改訂により、子どもたちの思考力、判断力、表現力等を育む観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動をするとともに、その際言語活動を充実させてそれらの能力を育成することが重視されている。ここで言う学習指導とは、言語活動を通し知識・理解を活用して思考力、判断力、表現力を高める活動を言う。

(2) 評価とは

評価は、子どもの学習状況を知り、学習目標の設定や指導方法の工夫などの改善に役立てるためのデータを得る活動である。今回の学習指導要領の改訂により、評価の観点が変更され、「技能・表現」が「技能」となり、「思考・判断」が「思考・判断・表現」となった。これは、言語活動を通し知識・理解を活用して思考力、判断力、表現力を高める学習指導が重視された結果に他ならない。そのため、学習指導において言語活動が重視されているわけである。これからの評価は、思考力、判断力、表現力を評価することが重視されることとなり、ここで言う評価も思考力、判断力、表現力が身に付いたかを見取る活動を第一義とする。

(3) 学習指導と評価に関する研究とは

新学習指導要領完全実施の本年度（中学校においては来年度）という過渡期において、各学校、各教科等部会においても新しい学習指導要領にしたがった学習指導に取り組んでいることと考える。本年度については、知識・理解を活用して思考力、判断力、表現力を高めるため言語活動の充実を図った学習指導及び、思考力、判断力、表現力が身に付いたかを見取る新しい評価の各教科等部会の実践事例の収集をすることにより、田川郡教育の充実・進展に寄与する研究とする。

4 研究の目標

各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動において、新学習指導要領がめざす確かな学力を身につけるための学習指導と評価方法について究明する。

5 研究の内容

- (1) 各教科・領域等の学力や児童生徒の実態を分析する。
- (2) 各教科・領域等における主題を設定する。
- (3) 各教科・領域等における主題を達成すべき学習指導と評価方法を明らかにする。
- (4) 各教科・領域等において主題に基づいた研究実践を行う。
- (5) 各教科・領域等において実践事例としてまとめ、成果と課題を明らかにする。

6 研究の計画

【1年次】

- ①研究主題の設定
- ②主題に基づく理論研究
- ③実践研究（各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動）
 - 授業計画
 - 検証授業
 - 考察・まとめ
- ④研究のまとめ
- ⑤研究紀要の作成

小学校教科等部会 活動報告

【図画工作科部会】 部会長 校長 村上奈美代
 ・組織づくりと活動計画
 ・実技講習及び作品鑑賞
 ・授業実践の交流と児童作品の鑑賞
 ・実践集の作成
 ・作品鑑賞（県児童画展作品）

【国語科部会】 部会長 校長 桑野 徳隆
 ・公開授業研究（弁城小5年 楠木文太郎 教諭）
 ・講師研修会 「読解力を高める言語活動」
 （筑豊教育事務所 杉嶋功治 主任指導主事）
 ・県児童文集田川郡審査
 ・県児童書写田川郡審査

【家庭科部会】 部会長 校長 宮崎 陽子
 ・組織づくり及び研修計画立案
 ・実技講習会 指導：栄養教諭 安倍ちか先生
 ・プランに沿った指導案作成
 ・筑豊地区家庭科研究大会（高田小学校）参加
 ・実践交流会

【社会科部会】 部会長 校長 高瀬 光一
 ・組織作りと活動計画作成、実践交流
 ・田川市石炭歴史博物館見学、実践交流
 ・言語活動の充実を図る学習指導研（川崎小）
 ・本年度の反省とまとめ

【体育科部会】 部会長 校長 角崎 計介
 ・組織づくりと年間計画
 ・近接学年毎の実践交流および情報交換
 ・着衣泳実技講習会 田川消防署（6/24）
 ・跳び箱運動実技講習会 糸田小（7/22）
 ・公開授業研（1月実施）採銅所小 西田 貴治 教諭

【算数科部会】 部会長 校長 國本 裕介
 本年度の活動内容
 ・「田川プラン」の実践、検証、修正
 ・学年の実践交流、指導案の検討・授業公開
 ・県重点課題 添田小学校研究発表会参加

【道徳部会】 部会長 校長 中村 英子
 ・組織作り、活動内容の確認、情報交換
 ・講師招聘研修会「道徳の授業づくり」
 講師 筑豊教育事務所 出口博雄 先生
 ・九州地区道徳教育研究大会参加（朝倉市）

【理科部会】 部会長 校長 松村 重治
 ・実践交流、学習指導情報交換
 ・言語活動の充実を図る学習指導の公開
 ・筑豊地区小学校理科研究会研修会への参加
 ・福岡県小学校理科教育研究大会への参加

【外国語活動部会】 部会長 校長 本田 義隆
 ・組織づくり及び研修計画立案
 ・講師研修会 県教育センター 浦田貴子 様
 ・研究協議会 糸田小学校 野村謙一 先生
 ・まとめ及び来年度の方向性の確認

【生活科・総合的な学習の時間部会】 部会長 校長 立山 俊治
 ・組織づくりと活動計画・内容の確認
 ・実技研修「学校菜園・花壇づくり」
 講師 教育センター 平田 陽一 先生
 ・実践交流、情報交換等

【特別活動部会】 部会長 校長 井上 憲治
 ・田川プランの実践・検証・修正
 ・低・高学年部会ごとの情報交換と交流
 ・福岡県小学校特別活動研究大会に参加
 分科会で田川郡が実践発表を行う。
 ・まとめ及び次年度への課題整理

【音楽科部会】 部会長 校長 永水 正博
 6月・・・年間計画・研究組織の決定、
 実技研修
 7月・・・講師研修会（歌唱指導）
 11月・・・公開授業（匂金小：仲道先生）
 2月・・・学年の実践内容の交流

【特別支援教育部会】 部会長 校長 古田 浩治
 ・組織づくり、活動計画案作成、情報交換等
 ・講話：筑豊教育事務所指導主事
 原田 智佳 先生
 ・実践交流、情報交換等

中学校教科等部会 活動報告

【保健体育科部会】 部会長 校長 行徳 昭彦
 ・組織づくりと年間計画の作成
 ・本年度体力向上プランの集約
 ・公開授業 体育実技「バスケットボール」
 ～バスケットボールにおける活動の
 振り返りと分析評価を通して～

【国語科部会】 部会長 校長 小田 玲子
 ・組織づくりと年間計画の作成（6月）
 ・筑豊地区中学校国語科研究会研修会（7月）参加
 演題「楽しく元気の出る国語科授業をめざして」
 ・公開授業（11月）匂金中学校 平岩志保 教諭
 第1学年 古典の世界～かぐや姫の物語

【技術部会】 部会長 校長 鍋藤 聖一
 研究テーマ「生きる力を育む技術・家庭科教育」
 ・学習指導の研修会（生物育成）
 ・県大会公開授業（川崎中） 事前事後の審議
 ・研究紀要の審議
 ・県大会準備と開催（筑豊地区大会）

【社会科部会】 部会長 校長 白石 俊幸
 本年度は、11月22日 福岡県中学校社会科研究大会を田川郡で開催し、田川郡の研究発表と方城中 荒尾和幸 教諭と赤池中 杉浦慶臣 教諭が授業発表を行いました。

【家庭部会】 部会長 校長 鍋藤 聖一
 研究テーマ「生きる力を育む技術・家庭科教育」
 ・学習指導の研修会（食物）
 ・公開授業（匂金中） 事前事後の審議
 ・研究紀要の審議
 ・県大会準備と開催（筑豊地区大会）

【数学科部会】 部会長 校長 縄田 哲也
 ・研究テーマ・組織決め、年間活動計画、
 活動内容の確認
 ・公開授業研究
 ・県数学科研究発表会等参加、年間のまとめ

【英語科部会】 部会長 校長 小原 孝司
 6月 郡英語科部会総会（金田中）
 10月 県大会参加（柳川市立蒲池中）
 12月 研修会「中学校英語の授業づくり」
 2月 田川郡指導案集第7集作成

【理科部会】 部会長 校長 佐々木 英一
 ・組織づくり、研修計画作成
 ・公開授業（匂金中）
 ・実験講習会（大任中）
 講師 小泉憲司 先生 を招聘

【道徳部会】 部会長 校長 小田 玲子
 ・組織づくりと年間計画の作成（7月）
 ・研究主題 自他を尊重する心をはぐくむ
 道徳の時間の研究
 ・公開授業（2月1日）大任中学校 真武裕二 教諭
 ・指導案集作成（各校2の項目で1部提出、3月発行予定）

【音楽科部会】 部会長 校長 岡本 豊俊
 ・研究テーマ、組織・年間活動計画策定
 ・授業実践交流・・・大任中
 ・各学校への合唱コンクール協力体制審議
 ・中音研参加

【総合的な学習の時間部会】 部会長 校長 縄田 哲也
 ・組織、研修計画作り（赤中）
 ・取り組み内容の情報交換（赤中）
 ・県研究会参加
 ・まとめ

【美術科部会】 部会長 校長 友松 秀樹
 ◎研究所テーマに沿った研究・研修の推進
 ○組織づくりと年間計画の作成
 ○テーマに沿った実践事例の交流
 ○生徒作品の鑑賞（於：織田弘喜美術館）
 ○県中学校美術展への生徒作品の出品

【特別活動部会】 部会長 校長 行徳 昭彦
 ・組織づくりと年間計画の作成（7月）
 ・研究主題 ストレスの対処法を身につけた
 生徒の育成の研究
 ・公開授業（12月）大任中 中原佐知子 教諭
 第2学年（ストレスとその対処法について学ぼう）